

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (古)

君がため春の野に出でて若菜摘む
わが衣手に雪は降りつつ

光孝天皇

〈歌意〉

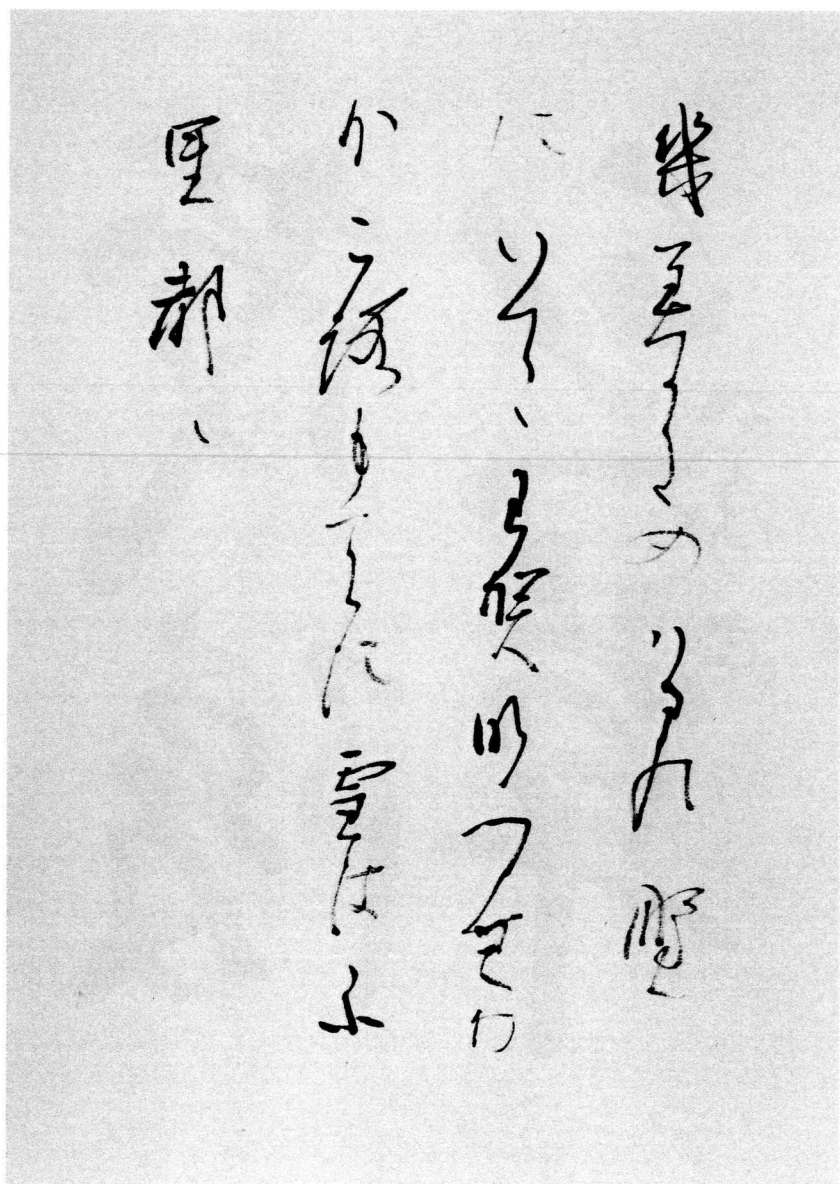
「あなたにさしあげようと、春の野原に出て若葉を摘んでいる私の袖に、雪がしきりにかかっていました。」この歌は『古今集』(春・二一番)に出ています。

(光孝天皇)

天長七(八三〇)年、仁和三(八八七)年、五八歳。第五八代天皇。

〈字母〉

幾美可多女ハる能野
にいて、王賀那川無わ
かこ路も天に雪はふ
里都



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

この歌は「三行三字」の書式で書かれています。この書式は、歌会の席に懐紙に書き、詠み上げる時の正式な書式です。最後の三字を万葉かな又は漢字で書きます。(若井香樹先生の著書より) (中村青藍)